

平成 28 年 7 月 22 日

13:30～

根羽村しゃくなげ

木づかいガイドライン作成資料について

- 1 木づかいガイドラインの原稿作成について
- 2 木づかいライブ スギダラキャラバンについて
- 3 その他

木づかいガイドライン作成・活動方針（案）

1 木づかいガイドラインの提案者・モニター・場所について

提案者・モニター・場所についての考え方は下表のとおりとして、共通認識を持って、その役割を担う方・場所を選定したい

区 分	内 容
提案者	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに木づかいの実績のある方 ・その取り組みが将来的な木づかい推進に結びついている方 ・心から本心でその木づかいに取り組まれている方
モニター	<ul style="list-style-type: none"> ・その提案に対する見込客と考えられる方 ・その木づかい推進の中心的な対象（年代）と考えられる方 ・その方に教えると多面的な展開が期待される方
場所	<ul style="list-style-type: none"> ・その取り組みの実績がある場所 ・その取り組みを発信する際、中心的な方・組織の存在する場所 ・その取り組みの活動拠点が作れるところ
イベントの性格	<ul style="list-style-type: none"> ・木づかい需要創造イベント ・木づかい体感・センスオブワンダーイベント ・木の感謝祭イベント

2 木づかいガイドラインの原稿依頼について

木づかいガイドラインの原稿依頼については、次のとおり共通認識を持ちたい

- ・提案者は上記のモニターと一体となって、その取り組みを広げていく「木づかいの潮流」を意識して、原稿を作成する
- ・特にモニターを「見込客」と意識することから、モニターに何を感じてほしいか、興味を持ってもらいたい点は何か、を明確にして提案する

NO	原稿依頼者	テーマ	時期

- ・当面、すぐに記載が可能な根羽村森林組合・豊田森林組合からスタート
- ・趣旨の説明文
- ・ガイドラインの案内文

当面の対象者

市民編

根羽小学校、山村担い手事例集対象者、有志

県・市町村

愛知県、岐阜県、長野県、根羽村、豊田市、安城市、恵那市

業界

流域の5森林組合、JTN、各工務店、木材流通関係者、店舗

研究機関

矢作川研究所、東京大学、信州大学、岐阜女子大学、愛知教育大学

(案)

関 係 者 各 位

矢作川流域圏懇談会

山部会座長 蔵治 光一郎

「木づかいガイドライン」等の原稿作成について(協力依頼)

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、国土交通省豊橋河川事務所所管の「矢作川流域圏懇談会」では、長野県から愛知県に至る矢作川に関連する様々な課題を解決し、流域にすむ私達の暮らしを豊かにするため、平成 22 年度から山、川、海の 3 部会を創設して、市民や各関係者が定期的に集まって検討を進めています。

特に山部会においては、上流域の森林資源を下流域で活用することが、森林整備の推進や水源かん養機能の発揮、地域振興に結びつくことから、「森づくり」や「木づかい推進」をテーマに継続的な活動を展開しています。

そこで今後、矢作川流域内で「森づくり」、「木づかい推進」活動をより積極的に展開していくきっかけとして、皆様ひとり一人の先進的な取り組み・考え方を「木づかいガイドライン」等として取りまとめ、広く流域市民に紹介していきたいと思えます。

ついては、当趣旨をご理解いただき、下記のとおり原稿を作成の上、取材担当者にお渡しいただきますようよろしくお願いいたします。

記

- 1 事例紹介原稿 市民編、市町村編、業界編、研究者編のどれかを選択してください
- 2 提出期限 平成 28 年 11 月 30 日までに取材担当者に提出してください
- 3 取材担当者 こちらで紹介させていただきます

〒441-8149

愛知県豊橋市中野町字平西 1-6

国土交通省豊橋河川事務所

担 当

TEL 0532-48-8107

FAX 0532-48-8100

Email uno-t85aa@cbr.mlit.go.jp

(例)

今すぐはじめる木のある暮らし

矢作川流域 「木づかいガイドライン」



矢作川流域圏懇談会

「森づくり・木づかいガイドライン」の作成及び活用することの意義

矢作川流域住民の社会生活に欠かせない水資源の安定供給を図るためには、矢作川流域にある森林資源を適切に管理して、自然災害に強く、大雨の時にも水を蓄えることのできる水源かん養機能等の森林の持つ公益的機能を発揮できるような森林に整備していく必要があります。

特に、将来木を伐って利用することを前提にして植えられた上流域に存在するスギやヒノキの人工林は、現在 40 年生以上の森林が多く、計画的な間伐により木の年齢に応じた適切な立木本数を維持していく必要があります。これは、木材として木を太くする必要性と、林内に陽光を入れて地表面の草や灌木類等の植生を繁茂させ、森林土壌を育成させて、降水による雨水の保水機能を高めるためです。陽光が林内に差し込まない暗い人工林は、地表面の植物が育たず森林土壌が育成されないため、雨水が地表面から浸透せず表面水として流れてしまい、その表面水が地表面を浸食して山崩れや鉄砲水等の山地災害発生の要因となります。平成 12 年、長野県南部や愛知県・岐阜県における恵南豪雨の際、矢作川ダムに流れ着き堆積した約 35,000 m³の木材の残骸は、その大半が間伐されずに放置されていた過密な人工林によるものだったことがその後の調査で判明しており、その他にも同地域の山崩れの多発や、増水による豊田市での一部堤防欠壊等、過密となった人工林の保水力の低下が災害発生の大きな要因になっていると考えられています。

また、隣り合う木と枝先が触れ合った時に間伐をしないで放置すると、次第に樹木の下側の枝の葉に陽光が当たらなくなってくるため、立木の枝が下から枯れあがって樹木全体の葉の量が減少します。そうすると、光合成を行う葉の量が減少して、木を太くすることが困難になってしまい、木材として必要な太さが確保できず、木材として利用しづらくなってしまいます。

現在こうした間伐等の森林整備については、国の森林整備事業を活用して地域の森林組合等が森林整備を推進していますが、間伐を必要とする森林はどの森林組合も非常に多く、また、ひとつの人工林について一定の年数を置いて 3~5 回程度の間伐を行う必要があります、毎年一定面積の間伐を実施しているところです。

将来木を伐って利用することを前提にして植えられたスギやヒノキであるのに、どうして現在の矢作川の上流域にはこうした間伐を必要とする人工林が多く存在しているのでしょうか。その大きなきっかけとなった出来事は、戦後急速な高度経済成長が進展したことから国内における深刻な木材不足が発生したことです。これを早急に解決する必要性から関税をかけない外材輸入が昭和 39 年から始まると、外材に比べて価格が高く、多品目で少量の扱いとなる国産材と比較して、価格が安く、均一に、大量に輸入される外材の方が扱いやすいため、急激に外材の輸入量が増加したことによって、昭和

50年代には国産材の自給率が約20%までに落ち込むほど、国産材の地位が低下してしまいました。

国産材は、こうした外材の輸入増加や、同時期に進展しだした工業製品による代替材の出現等によって、需要の落ち込みによる材価の低迷と、人件費の上昇傾向に伴う木材搬出コストの増大により、木材としての魅力が薄れ、森林所有者においても山に関心がない、山を持っていても何の得にもならない、という認識が全国的に一般的なものになり現在の状況に至っています。このため、森林所有者個人として間伐をして山を育成したり、山から木材を搬出して収入を得よう、という考えを持った森林所有者の方がほとんどいなくなってしまったのが現状であり、間伐による森林整備の时期的な遅れや、さらにそこから木材を搬出して利用しようとする人工林の本来的な活用に取り組めていない地域が非常に大きくなっています。場合によっては、所有されている森林の区域が不明確になっていたり、地域に所有者が居住されていなかったり、そのため森林整備に取り組めない、という厳しい現状を抱えている地域もあります。

こうした上流域の人工林の整備状況は、矢作川流域住民の社会生活に必要な水資源の安定供給に大きな問題として関わってきます。水資源が不足することなく安定的に供給されること、大雨などの異常気象の際に、地滑り、山崩れ、鉄砲水、洪水、河川の増水による堤防の欠壊等、下流域での水害を未然に防止するためには、上流域にある森林資源が常に適切に整備されている必要があります。

では、こうした矢作川流域内の森林整備をどのように適切に進めていくべきなのでしょうか。こうした課題の解決に向けた取り組みを検討するには、個々の行政単位の枠を超えて、流域単位の共通認識を持って取り組む必要性から、国土交通省が関係する市町村や関係団体、市民に呼び掛けて「矢作川流域圏懇談会」を立ち上げました。そこで、課題のテーマごとに山、川、海の3部会を設置して、この中の山部会で検討を進めているところです。ここでは、適切に森林整備を推進していくためには、どのように森林整備を推進していくべきなのか、それを担う人々が山村等で経済的に安定し自立した生活をしていくためにはどうしたらよいのか、現在どんな方々がどのような方法で山村や里山での営みを見出しているのか、ということをも山村や里山、矢作川流域に関係する様々な立場の方が集まって検討しています。その過程の中で、森林整備を推進させるためには、その担い手である森林組合や素材生産を営む者、山村住民が経済的に安定し自立した生活を持続可能なものにすることが重要であるという認識がなされました。同時に、こうした山村での経済的自立を支える地域産業として、林産業の振興こそが重要であり、このためには下流域の住民等に上流域の森林資源を利用してもらう「木づかい」を推進していくことが、課題解決のための一手法であるという共通認識が生まれました。

矢作川の上流域にある人工林を下流域の方々によってきちんと活用されることが、森林整備を進め、そのことによって、水資源の安定供給や持続可能な山村社会の形成に結びつきます。地元の木を地元で使って、地域社会を形成していくという、ごく当たり前の図式を、私達はこの矢作川から展開したいと考えています。それには、昔はどこでも

普通にあった地元の木づかいの思想から、流域の共通認識を得ていかなければなりません。そして皆さんの普段の暮らしや、身近な生活空間を「木のある暮らし」に変えていくことがひとつのポイントになります。それも、木ってすばらしいなあー、という木を使うことに対する共感を持って、木をもっと身近に感じていただければと思います。このため、「木づかいガイドライン」は少しでも、皆さんが行動を起こしやすいように、少しでも木に共感を持てる場面を提供できるように市民の目線から、市民、行政、業界、研究機関のそれぞれの立場の方々から様々な提案をいただいて成立しています。

この「木づかいガイドライン」の今日的な意義は、こうした様々な立場の方々がかつて市町村、業界に所属しながらも、それらの枠組みを超えて、矢作川の流域単位の意識を持って市民の目線から木づかい運動を進めていこうとするところにあります。行政主導ではなく、木づかいに対して共感を持った木の一ファンからの「木づかい推進草の根運動」と認識していることです。どんなテーマを、どんな提案者が、どんな思い入れを持って提案しているか感じ取ってください。そこがこの木づかいガイドラインのポイントです。職制上や組織としての提案もありますが、基本的に木に対して思い入れのある提案者による「さあ～しよう」という内容の提案となっています。

木づかいガイドラインによって、すぐに役立ち一生使える技能も身につけて頂けると思います。そうして、木づかいを覚えていただいたら、今度はあなたが主役になって木づかいを進め、また提案してください。そうすることによって、新たな木づかいのテーマや、人の輪や、木の先生が生まれていくことでしょう。このサイクルはきっと間違いなく、地域を元気にしていくものだと確信しています。

木づかいガイドラインを始めて手にした方々へ

「木のある暮らし」を始めるためのガイドラインの楽しみ方

「木づかいガイドライン」はあなたが主演になって、あなたのライフステージを「木のある暮らし」に変えていく楽しい提案がたくさんあります。最初は、あなたが取り組めそうなテーマを選んで、ご自身自ら楽しんでみてください。テーマは様々な木づがいから、森に出かけていって楽しむものまでとてもたくさんあります。

あなたが「木のある暮らし」の扉を開くと、そこには森や、森や木に関わる人達のもとても大きな人の輪につながる無現の世界が広がっています。その世界は、あなたの心の中にきつととても魅力的で豊かな時間を作り出すことでしょう。

木の楽しみの原点は何でしょうか。それは、自分の好きな木を使って、自分の思い通りに様々なものをつくることです。木を手にとって、まず木の温もりを感じてください。その木と友達になってください。木の木目や色合いや香りを感じてください。そこから、あなたが木と共に過ごす時間と比例して自然に高まる知識や技能を楽しんでください。今まで知らなかった魅力的な世界が目の前に一杯広がっていることをあなたは感じることでしょう。自らの手づくりによって「木のある暮らし」を始めることによって、木と友達になって自分の時間を作り、そして自らの知識と技能を高めて「生活の品質」を高めてみてください。

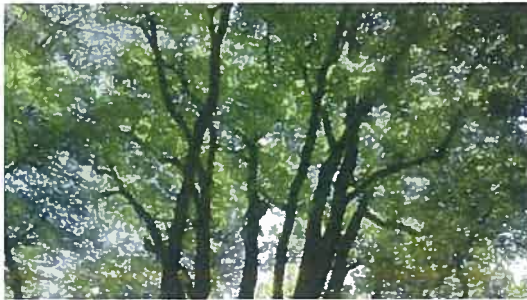
いくつものテーマの中で、あなたができるようになったもの、それは、今度あなたがその場面で主演になれるということです。そのテーマの技術を使って今度はあなたが主演になって木の魅力を多くの人に伝えてほしい、と思います。そこで、なにか課題を感じたらこのガイドラインにのっている方々に相談してみてください。きっと、参考になるたくさんのヒントを教えてくれることでしょう。また、新しく得られた知識・経験・技能は木づかいガイドラインに提案してください。皆で、矢作川流域の木づかいの場面や品質を高めていきましょう。

木づかいガイドラインを作った私達は、これから矢作川の流域圏を活動対象とした「木づかいライブ・スギダラキャラバン」を開始します。この取り組みはできる限り、各地域のイベントやお祭りなどの時に、木を楽しむイベントを開催して、木の魅力を伝え、同時に木づかいガイドラインも配布して、木のファンを増やしていくことが目的です。このイベントに皆さんが参加され、一緒に木のお祭りを各地で展開していきましょう。あらゆる立場の方々がその立場の垣根を越えて「木づかい」で新たな絆を結びつけていきましょう。そして、流域に住む住民が協力しあいながら、矢作川の流れと共に魅力ある「木のある暮らし」を進める「矢作川ディズ」を楽しみましょう。

～人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす

森林や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルへの誘い

矢作川ディズ～



森林や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルはとても素敵です。身近な生活空間の中に魅力的な木の製品をたくさん取り入れてみましょう。矢作川の流れを見つめ、自然の息吹に耳を傾けてみましょう。愛知・岐阜・長野の3県を流れる矢作川流域圏を対象としたこの「木づかいガイドライン」には、そんな森

林や木の魅力や、それを育む矢作川流域の自然環境に出会い、流域に暮らすひとり一人が未来にむけて互に関わり合いながら、豊かで魅力的な地域社会を目指して活動していく（楽しむ）ヒントがたくさん書かれています。

この本を作った私たちは、森林や木の魅力や矢作川の自然環境をたくさんの方々へ伝え、森林や木や矢作川の自然環境と触れ合うことで市民の輪が広がり、そのことで地域が元気になっていくことを願っている一市民です。それぞれの様々な立場や経験から、森林や木や矢作川の流れに対する愛情や想いや妄想もたっぷりこめて、矢作川流域に住む方々のために、もっと森林や木を好きになろうよ、もっと地域の木を使ってみようよ、もっと森林や木と共に生きている人達と友達になろうよ、そして地域に住むひとり一人が矢作川の自然環境の素晴らしさを共有し、皆で未来に向けて魅力的な森林・川・海・街になるようにアクションを起こし育てていこうよ、という考え方を基本にして市民の目線からこの本を作りました。



根羽村の子供が魚つかみの先生です



山村の若者たちが楽しい出会い企画を作りました

この本を読むときつと、あなたのライフスタイルが素敵な森林や木の製品に彩られることになるでしょう。訪ねてみたくなる森林やお店、森や木と共に生きている人と直接会って、話してみたくなることでしょう。もっと多くの同じ気持ちを持つ仲間と出会って、魅力的な地域づくりに参加してみたくなるでしょう。そんなことを通して、あなたの心が今よりもっと明るく朗らかにそして大きく広がって、森林や木とそ

れを育む矢作川の流れと共に生きていく素敵なライフスタイルに目覚められることを期待しています。

こんなライフスタイルは、きっと私たちの暮らすこの矢作川の上流から下流に暮らす人々の交流や結びつきを高めることになるでしょう。今まで以上に流域に住む人々への尊敬や感動、そして地域に対する思いやりの心、協力しあうことの大切さに気がつくことになるでしょう。こうしたライフスタイルの基本となるような、地域とそこに暮らす人々と共に生き愛する気持ちが、矢作川の流れを地域の心の絆として、私たちにとって本来あるべき、そして未来に亘って暮らしやすい持続可能な流域を作り出していくグッドスピリットであることに違いありません。



住民によって整備された矢作川古瓶水辺公園

私達の故郷の源である矢作川の流れを見つめ、いつまでも美しい森林と川と海に囲まれて人生を楽しみ、愛する家族と共に幸せに暮らすことができるように、今こそ流域に暮らすひとり一人の住民の意識改革から、この豊かな自然環境を持続可能な財産として皆の手で育み、ずっと暮らしていたくなる魅力的な矢作川流域的生活空間「矢作川デイズ」を創り上げていきましょう。

木づかいガイドライン 「さあ~しよう」のフォーマット（市民編案）

区 分		内 容			
さあ~しようのテーマ					
いつ					
どこで (位置図)					
内 容					
対象者					
対応する者					
面白い点 魅力的なところ					
必要な時間					
必要な金額					
準備するもの					
イメージ（映像）					
お薦めポイントは					
参加者からのレビュー					
対象年齢	衝撃度	神秘度	リピーター率	安全性	ステージ表

木づかいガイドライン 「さあ~しよう」のフォーマット（市町村編案）

区 分		内 容		
さあ~しようのテーマ				
内 容				
対 象 者				
対象者の条件				
魅力的なところ				
必要な時間				
必要な金額				
準備するもの				
イメージ（映像）				
お薦めポイントは				
利用者からのレビュー				
対象年齢	衝撃度	やってよかった度	他県普及性	市民貢献度

木づかいガイドライン 「さあ~しよう」のフォーマット（業界編案）

区 分		内 容		
さあ~しようのテーマ				
内 容				
対 象 者				
対象者の条件				
魅力的なところ				
必要な時間				
必要な金額				
必要なメンテナンス				
イメージ（映像）				
お薦めポイントは				
利用者からのレビュー				
対象年齢	衝撃度	やってよかった度	他県普及性	市民貢献度

木づかいガイドライン 「さあ~しよう」のフォーマット (研究者編案)

区 分		内 容		
さあ~しようのテーマ				
内 容				
対 象 者				
研究の魅力的なところ				
必要な時間				
事 業 費				
イメージ (映像)				
研究のお薦めポイントは				
研究者からのレビュー				
市民貢献度	衝撃度	おすすめ度	他県普及性	発展性

矢作川流域で進めたいスギダラ木づかい推進活動と

ウッドスタートの明るく楽しい未来への展望

スギダラ矢作川流域支部長

根羽村森林組合 参事 今村 豊

1 「木づかい」推進の目的と「森の民」としての努め

私は矢作川流域圏懇談会の山部会に参加しており、その部会で「木づかいガイドライン」作成の担当になっています。矢作川流域を巡る様々な課題の内、水資源の安定供給を図るには、これからも上流域の森林整備を積極的に進め、水源かん養機能を持続的に発揮させていく必要があります、そのためには、山村で暮らす森林整備や木材加工の担い手が、林産業によって経済的に自立し、安心して暮らせなければなりません。「木づかいガイドライン」には、こうした「木づかい」による森林整備と木材加工の推進により、人の暮らせる山村社会を作り出していく意義があります。

上流域にある森林資源を整備し、それを下流域等で活用していくことを「木づかい」と呼び、森林を整備し活用していく上流域の「林産業」＝「木づかい産業」の振興により、魅力ある森林と木材加工の職場を地域に確立し、安心して林産業で自立できる山村社会に導いていくことが「木づかい」推進の大きな目的です。



根羽村のスギ人工林



根羽スギの家にして良かった

山村に住む私達「森の民」の存在意義は、多くの先人達によって育成され充実した森林資源を、持続的・計画的に整備し、それらをきちんと活用して自分達の生活の糧とし、また、その森林や木の恩恵を下流域の方々にしっかりと伝え贈ることです。森林の整備を依頼された村民から「見栄えのある山になった、ありがとう」と言われることを最大の喜びとし、伐り出した木材はきちんと製材加工して、皆さんに「すごい木だなあ、やっぱり木の家にして良かったなあ、木のぬくもりに囲まれて幸せだなあ」と言ってもらえることが、森や木に携わる「森の民」の誇りです。

植えられた木は植林されて長い間、水源かん養林として水資源の安定供給という公益的機能を果たしていますが、伐り出されて使われるようになってやっと始めて、

森林所有者や木を使われる方の役に立つことができます。恐らく木の嫌いな日本人はいないでしょう。木の自然な温もりは人の心を和らげます。「木の文化」のある日本なのですから、育てた木をきちんと使う、そんな普通の木の活用や使いみちを「森の民」は願い、下流域の方々にもっと身近な生活空間で木を使ってもらい、皆で木を使うことで人の集まる居心地の良い地域の公共的な空間も作っていただき、もっと木の魅力に気付いて欲しいと願っています。皆さん、木は大好きでしょ！

しかし、現在の日本においては「林業」という言葉は死語になりつつあり、教科書からは「林業」という言葉が消えています。林業の最前線で働く技能職員の姿は、一般社会からは見ることがないし、どんな風にして木を伐り出しているか、どんな苦勞をしているのかは全く想像できないと思います。そんな状況ですが、この「林業」という産業を支えているのは、全国から集まった森林や木の仕事をしたい、という志を持った若者です。その多くの方は、森林や林業の専門的な勉強をしてきた



志のある山の技能職員

訳ではありません。ではなぜ、彼らはやって来たのか。それは、自然の中で働きたい、自分の力や技能を活かしたい、都会や人間関係は煩わしい、歯車のひとつという感じから抜け出したい、森林や木が好きだ、小さい頃に森林を歩いた、アウトドアが好きだった、山登りに夢中だった、一資本家の奴隷でなく社会的使命感のある仕事に就きたかった等、様々ですが、やはり基本的には「自然の中で仕事がしたい」、「自分が主役になって成長したい」、「今自分が存在し働くことに対する実感を得たい、生きることへの真摯さが大切だ」という面から、林業が自分には最も相応しい、という思いがあってこの職業を選択されています。今は、実戦力と志のある「森の民」として活躍されていますが、ある意味、林業は「志産業」と言えます。

自分が伐採・搬出した森林の将来が楽しみ、と多くの職員は口にします。そんな頼もしい彼らと話し合っていると、私達は彼らにとって夢のある職場にしなければならないと痛感します。そのためにもっと私達が社会に働きかけて、山村が生き残れて、経済的に安心して林業に取り組めるような社会的なシステムを構築しなければならないと思います。そうしないと、今働く技能職員のモチベーションの持続や、社会的に引き継がれていかなければならない将来的な林業の人材を確保することが困難であるし、夢や希望を持って山村や林業に就職する者が、本当に志のある限られた方に特化されてしまうと思います。現状は、こうした志ある



自分で伐採した山の将来が楽しみ

若者に支えられた産業と言っても過言ではないでしょう。「木づかい」推進は私達が今取り組める自助努力のひとつです。木を贈り届ける立場から、自らの存在意義も問いかげながら、木の持つ魅力、森林や木と過ごす豊かな時間を下流域や流域の方々に伝え、もっと身近な生活空間を流域の木で満たして欲しいと思います。



「木づかい」を推進する「木づかいガイドライン」は、例えば、このような森林組合の最前線の技能職員等が山村社会で安心して暮らせることや、青少年がこれから森林や木を対象とする職業に就けるように導く方法にも配慮しながら、現状を打開するためにはどんなトライが必要なのか、検討・提案しています。こうした検討・提案の中で、

森林や木の活用、山村における農林業による持続可能な地域づくり、里山の活動グループ同士の新たな「木づかい」をきっかけとした連携、山村の様々な元気を生み出す新たな潮流づくりにも結びつきたいと考えています。「木づかい」が流域内の社会に広く浸透することで、山村の林産業の振興が図られて、上流域の山村等の雇用の場が確保されます。その結果、若者のＩターン受け入れ等による定住促進が進み、新たな「森の民」が誕生して過疎化が止まり、持続可能な地域づくりに結びつくような成果を期待しています。

また、山村では林業を支える若者の存在が常に身近にあるため、彼らの思いを知る機会が多く、物理的に厳しい職場環境、決して高くない給与、チームの和が必要とされる人間関係等から、彼らの本音や今後の将来設計について考えずにはいられません。組合経営的にも、森林整備部門と製材加工部門の戦略や、利益の向上に向けた取り組みが常に頭から離れません。

従って、私にとって「木づかい」とは、山村社会の存続に関わる必然的に取り組まなくてはならない課題であり、「森の民」として生き残るためには誰と、どんな「木づかい」の行動を、誰に対して展開していくのか明確にしなければならない、というモチベーションがあります。



森林組合の製材工場は山村の貴重な雇用の場

2 矢作川流域圏懇談会山部会における「木づかいガイドライン」とは

「木づかいガイドライン」は、矢作川上流域にある森林資源を下流域の流域住民に活用してもらう上下流連携により、流域内の森林整備を推進させ、同時に地域の林



さあ皆で樹木の配置を考えてみよう

産業等の地域産業の振興を図ることにより、活力ある流域社会を構築しようとするものです。同時に、流域の方々に森林や木の魅力を伝え、「木づかい」推進活動に私達と共に参加していただくように呼び掛けるものです。一緒に行動して検討したり、体験してもらう多くの場面を提供して、森林や木と過ごす時間の楽しさを感じていただければと思っています。

その内容は市民、行政、業界、研究機関が一体となって、現在実践されている「木づかい活動」も含め、これからどのような行動を展開していくことが、この流域の「木づかい」推進に結びつくのか、流域内には現在どのような取り組みが行われているのかを把握しながら、その一つひとつの取り組みを、その実践者から伝えたい相手を意識して、市民の目線から提示しようとするものです。山部会の他の2つのテーマである「山村担い手事例集づくり」、「森づくりガイドライン」の検討と併せて、毎回メンバー同士で、どのような「木づかいガイドライン」を作成するか検討しており、現在その原案が固まりつつあります。



信州大学による次世代に向けた低コスト造林地調査

「木づかいガイドライン」の意図していることは次のとおりです

- ① 市民、行政、業界、研究機関の各関係者と有志が流域内の「木づかい推進」に一体感・共感・共通認識を持って取り組むこと
- ② 現在流域内の各地で行われている様々な立場の方の魅力的で楽しい「木づかい」の取り組みを「見える化」すること
- ③ 「見える化」された木づかい推進活動の有志の方々と「人の輪」をつくること
- ④ その「人の輪」による様々な化学反応により、流域内の各地で市民に「木づかい」に対する魅力や楽しさを伝え、共感と活動を呼び起こすこと
- ⑤ 木づかい提案者ひとり一人の培ってきた森や木に対する経験値を重視し、提案者とその受け手がチームとなって、木づかいの主役と立役者のコンビで木の魅力を発信していくこと
- ⑥ 「木づかいガイドライン」を手にとると、すぐに行動したくなるような「さあ～しよう」という市民目線に沿った提案とすること

3 「木づかいガイドライン」と矢作川流域で進めたいスギダラ木づかい推進活動

「木づかいガイドライン」は、市民、行政、業界、研究機関のそれぞれの立場の方々が、現在行っている「木づかい活動」を、今後対象者として働きかけたい相手を想定しながら「さあ～しよう」と言う形で、提案するものです。



インパクトがあって盛り上がった若杉さんの講演

今回、この提案の原案検討中に「全国スギダラケ倶楽部」の若杉会長をお招きしてご講演をお願いし、その活動内容を参考にさせていただきました。感想を一言で言えば、すごい一言です。様々な立場の方々が、様々な公共施設等をスギダラケにする活動を全国各地で展開されていて、その仕掛人が若杉さん、ということですよ。すごいエネルギーだなあーと驚きました。また、全国各地でどんどんスギダラケの活動が人々に伝播していく様子や、それも優れたデザイン提案をされる実力ある内容で、その上、何だか皆で踊りまですべて盛り上がっている、うーんすごすぎる。感服しました。それに話が面白過ぎる。振り返って、私達の活動は（まだ始まっていないけど）固いのかなあー。

いずれにしても、若杉さんが平成 26 年 9 月 19 日に根羽村に来ていただいたのをきっかけに、メンバーの丹羽さんの上手な取り計らいで「スギダラ矢作川流域支部」がめでたく発足いたしました。一応、今までの成り行きと村長の許可を得て、私今村が支部長を務めさせていただくことになりました。よろしくお願ひします。まだ、皆様に確認しておりませんが、支部活動の方向性と目的（案）は次のとおりです。

支部活動の方向性と目的（案）

「スギダラ矢作川流域支部」は、「全国スギダラケ倶楽部」の活動趣旨に準じ、戦後の復興期に段階的に植栽されてきた矢作川流域のスギやヒノキを始めとする人工林をきちんと活用することにより、流域内の林産業や山村・里山に活力を生み出し、同時に、矢作川流域市民の全ライフステージを対象とした「スギダラ」活動による木づかいを推進することにより、市民生活の様々な場面において魅力的な木に彩られた生活空間を創造して「地域の人の輪」、「地域の元気」を生み出すことを目的とします。併せて、流域内の各市町村から「ウッドスタート」宣言をいただき、「木づかい推進活動」への参加と協力に向けて、流域一体となった取り組みを展開していきます。

注)「スギダラ活動」とは、流域内のスギ・ヒノキの人工林や広葉樹をきちんと活用して、あらゆる生活空間を「スギダラケ（ヒノキダラケ・広用樹ダラケ）」にする活動である。

現在、山部会のメンバーで検討している市民、行政、業界、研究機関による「木づかいガイドライン」による「さあ～しよう」の内容は次の表のとおりです。提案者、モニター、場所についてはまだメンバーによる検討（案）の段階であることをお断りしておきます。これらの名称について、公開するか迷いましたが、「全国スギタラケ倶楽部」のオープン性に準じ、また矢作川流域のリアル感を感じてもらいたいため、検討（案）のまま提示しました。これらの内容について、「スギダラ矢作川流域支部」活動の一環として展開していきたいと思えます。また、こうした「木づかいガイドライン」による取り組みを矢作川流域一体で進めていく時の思想的なものとして「矢作川ディズ」も作りましたので、併せて紹介します。



根羽村での木づかい検討会・どこでもブランコの試乗

木づかいガイドライン 市民編A（案）

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	弓矢づくりにチャレンジしよう	ネバリン	小学生	根羽
2	自分の好きな木のペンダントを作ってみよう	ネバリン	小学生	根羽
3	自分でマイお箸を作ってみよう	ネバリン	小学生	根羽
4	自分のお家の木の表札づくりチャレンジしてみよう	ネバリン	小学生	根羽
5	自分の好きな板をピカピカに磨いて自分だけの宝物にしてみよう	根羽小	大人	根羽
6	自分で薪を作ってドラム缶風呂を沸かし湯につかろう	ネバリン	小学生	根羽
7	木の葉っぱで部屋の匂いをよくしてみよう	根羽小	小学生	マイルーム
8	木のカルタ取りにチャレンジしよう	ネバリン	小学生	原っぱ
9	自分のマイツリーを見つけて名前をつけよう	丹羽	ファミ	恵那
10	いよいよ自分で森づくりにチャレンジしよう（サクラ山・花の山）	伐採者秀美	新婚	根羽
11	木の幹（マイツリー）にハンモック（どこでもマイウッドデッキも）を吊るして涼しく昼寝してみよう・山の中のコーヒータイムを楽しもう	丹羽・ハンモック2000	ファミ	恵那
12	ツリーハウスに遊びに行こう	T建設	ファミ	根羽檜原
13	自分だけの露天風呂と足湯を手に入れよう	ネバリン	女子	根羽檜原
14	自分のお風呂に木を浮かべて香りを楽しもう	根羽小	女子	お風呂
15	日本の代表50種の樹木を覚えよう（葉の標本づくりにチャレンジ）	豊田森組	大学生	豊田
16	自然の生き物観察場所の看板を立てよう	豊田森組	小学生	豊田
17	日本人なら木のお風呂のある温泉につかろう（中房温泉）	中房温泉	青少年	安曇野

18	チェンソーアートを学ぼう	ネバリン	青年	根羽
19	色々な木のおもちゃづくりや木工工作にチャレンジしよう	ネバリン	父と子	根羽
20	きれいな川で遊ぼう	J・T・N	小学生	根羽
21	自分だけの滝に道を開けてマイナスイオンを浴びよう	こもれび	女子	根羽
22	木のある公園のウッドデッキで読書しよう（ブックレビューもつくろう）	ネバリン	読書人	安城
23	木と森のある素晴らしい大学に遊びに行こう（信州大学農学部ゆりのき）	信・名大生	高校生	信大・名大
24	筏（ボート）で川下りにチャレンジしてみよう	筏隊・アル	中学生	岡崎・飯田
25	木のお店案内ブックをつくろう・木のアンテナショップに遊びに行こう	沖・松井	お仲間	流域内
26	スギダラチームの輪を広げて全生活空間をスギダラけにしよう	若杉・ 丹羽・今村	木の人	豊田駅・トヨタ 自・アイシング グループ・安城市
27	夜空を見上げ星と森の声聴こう	星と森の人	小学生	根羽森沢
28	木の科学実験で木を良く知ろう・木を使おう・木を楽しもう 輪っば弁当箱づくりにチャレンジしよう	根羽小・ 花野屋	小学生 ファミ	エコフルタウン 根羽
29	自分達の力で山の木を搬出して地域通貨を手に入れよう	南木	山親父	根羽・豊田
30	自分達の力で豊田から根羽まで縦走路を整備して休憩小屋を建てよう	山岳会・店	豊田隊	根羽・豊田
31	自分で取り組んだ森の健康診断を活用しよう	矢作川研	豊田人	豊田
33	木の小屋においてよ（中村好文さんと連携）	中村好文	開拓者	遊休農地

木づかいガイドライン 県・市町村編B（案）

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	山主森林経営講座に参加して自分の山を管理の仕方を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
2	森林自然観察リーダー入門講座に参加して自然観察の基本を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
3	間伐ボランティア初級講座に参加してチェンソーによる間伐を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
4	山主自力間伐講座に参加してチェンソーを使って自分の山を間伐しよう	豊田森組	豊田人	豊田
5	セミプロ林業作業員養成講座に参加して林業就業者を目指そう	豊田森組	豊田人	豊田
6	森林セミナーに参加して色々な森林を歩きながら森林管理を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
7	矢作川源流の森ウォーキングに参加して源流域の動植物を観察しよう	豊田森組	豊田人	豊田
8	夏休み昆虫観察に参加して森の生き物の生活や不思議さを体験しよう	豊田森組	豊田人	豊田
9	初めての間伐体験に参加して簡単にできる間伐を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
10	森林調査いろいろ学習会に参加して植生・林分・土壌調査の基本を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
11	「木づかい」いろいろ発見に参加して原木きのこの菌打ちを体験しよう	豊田森組	豊田人	豊田
12	森林の草花調べに参加して高原・山地・丘陵の草花を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
13	間伐してベンチの製作まで全工程を自分達で行い、公共施設に寄付しよう	豊田森組	豊田人	豊田
14	様々な山の助成金制度を活用して自分の山づくりに取り組もう	各森組	森林所有者	豊田他
15	様々な木の家づくりの助成金制度を活用して地元の木で家を立てよう	各県	お施主	各県

16	地元の木を使った住宅見学会に参加して地元の木で家を建てよう	各 県 ・ 工務店	お施主候補	各 県
17	木造公共施設を訪ねて木の使い方を参考にしよう	豊田 ・ 根羽 ・ 工 務店	市町村	豊田 ・ 根羽
18	各地で取り組まれている間伐材利用事例を参考に矢作川流域材を活用しよう	各 県	市町村	
19	根羽スギの家モデル住宅に体験宿泊して木の家を楽しもう	根羽村	お施主候補	根羽
20	長野県地域発元気づくり支援金事業に応募して皆のふるさとを作ろう	ネバリン	各 NPO	根羽
21	根羽村地域発元気づくり支援金事業に応募して皆のふるさとを作ろう	根羽村	村民	根羽
22	根羽スギ柱材 50 本無償提供事業を使って有利に根羽スギ住宅を建てよう	根羽	お施主	根羽
23	市町村有林を使って新しい森づくりにチャレンジしよう(伐採・造林一貫施業)	ネバリン	森林所有者	根羽
24	市町村有林を使って子供たちに間伐を教えよう	各森組	小中学生	全市町村
25	皆で憩いの森の木道・木橋づくりにチャレンジしよう	ネバリン	市町村	根羽
26	都市の中心部に緑の憩いの公園を計画してつくろう（豊田市・番外飯田市）	豊田飯田	市町村	豊田・飯田
27	長野県 信州型エコ住宅推進事業 50～80 万円の助成を利用しよう	長野県	お施主	長野
28	長野県 信州型住宅リフォーム促進事業 20～50 万円の助成を利用しよう	長野県	お施主	長野
29	岐阜県 産直住宅建設支援制度 105,000 円相当の木材支給を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
30	岐阜県 ぎふの木で家づくり支援事業 20 万円の助成を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
31	岐阜県 ぎふの木で内装木質化支援事業 10 万円の助成を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
32	岐阜県 ぎふの木で家づくりローン支援制度 優遇金利による支援を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
33	愛知県 あいち認証材利用促進事業 構造材・造作材等 8,000 円/m ² の助成	愛知県	お施主候補	岐阜
34	材料施工分離発注方式で適正な木材製品価格で計画的に建築材料を入手しよう	豊田市	各市町村	豊田

木づかいガイドライン 業界編C（案）

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	君も人生の方針として自然科学や農林業を選択しよう	ネバリン	中・高校生	根羽
2	君も、自分が主役になれるクリエイティブ産業・農林業の担い手になって地域を元気にしよう	ネバリン	信大・名 大・岐阜女 子大他	根羽
3	君も夢と希望あふれる地元の森林組合職員になって、豊かな自然の中で森づくりと木づかいを楽しもう	ネバリン	山の人	根羽
4	森づくりの達人（森の民）になるために様々な技能を身につけよう	各森組	山の人	全流域
5	森林簿と施業図を使って自分の山を覚えよう	豊田森組	森林所有者	豊田
6	自分の山づくりのプランを建ててみよう（オーダーメイドの山づくり）	ネバリン	秀美	根羽

7	様々な木材の搬出方法を見学しよう	各森組	山の人	全流域
8	山の技能作業手順書をマスターしよう	ネバリン	山の人	根羽
9	自分の山の木がいくらになるか森林施業プランを提出してもらおう	根羽・ 恵南	山の人	根羽・恵那
10	自然を楽しむ様々なグッズを手に入れて自然の中に飛び出そう	洲崎	女子	豊田
11	国産材の家づくりに実績のある工務店・建築士さんに会いにいこう	お施主	お施主候補	全流域
12	机やイス・家具など一生使える木製品の注文をしよう	A 建設	ファミ	根羽
13	一生使える机やイス・家具など木製品を家族で製作してみよう	A 建設	ファミ	根羽
14	魅力ある国産材製品のカタログを入手して木のある暮らしをはじめよう	販路開拓	ファミ	長野
15	森づくりと木づかいに取り組む、知って得して面白い魅力的な方のお話を聞きにいこう	事例集	市民	全流域
16	製材工場の端材を使って小屋づくりをしよう	ネバリン	山の人	根羽
17	住宅建築フェアを見に行こう	ネバリン	お施主候補	開催地
18	東京おもちゃ美術館を見学し児童向け木のおもちゃを研究しよう	ネバリン	保育園	東京
19	N 社企画 需要創造型イベント・体感ツアー・木の感謝祭に参加しよう	N 社	市民	豊田
20	N 社企画 パワーホーム豊田プレミアムのコンセプトを学ぼう	N 社	市民	豊田
21	木曽川流域材の家づくりのシステムを学ぼう	N 社	市町村	豊田
22	オークビレッジ木の時間工作にチャレンジしよう	ネバリン	父と子	根羽
23	木の工作に必要な広葉樹を育成しよう	ネバリン	山の人	全流域
24	スギダラどこでもシリーズで世の中をスギダラけにしよう	ネバリン	市民	全流域

木づかいガイドライン 研究編D (案)

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	地元の大学と地域連携協定を締結して、山村・里山の課題解決に向けて学生と一緒にチャレンジしよう	信大	市町村	根羽
2	持続可能な地域づくりに向けて里山の課題を市民から集めよう	信大	市町村	根羽
3	次世代に向けた森づくりと低コスト造林を確立しよう	信大	山の人	根羽
4	スギ人工林の植物種多様性を評価し、生物多様性保全に留意した森づくりに取り組もう	信大	森林所有者	根羽
5	伐採後に発生するスギ針葉から精油を抽出して商品化に取り組もう	信大	女子	根羽
6	農林一体化事業を支援する地理情報の可視化手法を開発しよう	信大	市町村	根羽
7	山村の聞き書き調査を行い、山村文化を発掘し継承しよう	実践者	対象者	根羽
8	雪害被害林の今後の施業指針を確立しよう	信大	市町村	根羽
9	集落周辺の森林について保残木マーク施業等景観林施業を確立しよう	ネバリン	集落	根羽
10	スギ重ね梁の実用化を実現させよう	ネバリン	工務店	根羽

～人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす

森林や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルへの誘い

矢作川ディズ～



森林や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルはとても素敵です。身近な生活空間の中に魅力的な木の製品をたくさん取り入れてみましょう。矢作川の流れを見つめ、自然の息吹に耳を傾けてみましょう。愛知・岐阜・長野の3県を流れる矢作川流域圏を対象としたこの「木づかいガイドライン」には、そんな森

林や木の魅力や、それを育む矢作川流域の自然環境に出会い、流域に暮らすひとり一人が未来にむけて互いに関わり合いながら、豊かで魅力的な地域社会を目指して活動していく（楽しむ）ヒントがたくさん書かれています。

この本を作った私たちは、森林や木の魅力や矢作川の自然環境をたくさんの方々に伝え、森林や木や矢作川の自然環境と触れ合うことで市民の輪が広がり、そのことで地域が元気になっていくことを願っている一市民です。それぞれの様々な立場や経験から、森林や木や矢作川の流れに対する愛情や想いや妄想もたっぷりこめて、矢作川流域に住む方々のために、もっと森林や木を好きになろうよ、もっと地域の木を使ってみようよ、もっと森林や木と共に生きている人達と友達になろうよ、そして地域に住むひとり一人が矢作川の自然環境の素晴らしさを共有し、皆で未来に向けて魅力的な森林・川・海・街になるようにアクションを起こし育てていこうよ、という考え方を基本にして市民の目線からこの本を作りました。



根羽村の子供が魚つかみの先生です

この本を読むときと、あなたのライフスタイルが素敵な森林や木の製品に彩られることになるでしょう。訪ねてみたくなる森林やお店、森や木と共に生きている人と直接会って、話してみたくなることでしょう。もっと多くの同じ気持ちを持つ仲間と出会って、魅力的な地域づくりに参加してみたくなるでしょう。そんなことを通して、あなたの心が今



よりもっと明るく朗らかにそして大きく広がって、森林や木とそれを育む矢作川の流れと共に生きていく素敵なライフスタイルに目覚められることを期待しています。

こんなライフスタイルは、きっと私たちの暮らすこの矢作川の上流から下流に暮らす人々の

交流や結びつきを高めることになるでしょう。今まで以上に流域に住む人々への尊敬や感動、そして地域に対する思いやりの心、協力しあうことの大切さに気がつくことになるでしょう。こうしたライフスタイルの基本となるような、地域とそこに暮らす人々と共に生き愛する気持ちが、矢作川の流れを地域の心の絆とし

て、私たちにとって本来あるべき、そして未来に亘って暮らしやすい持続可能な流域を作り出していくグッドスピリットであることに違いありません。

私達の故郷の源である矢作川の流れを見つめ、いつまでも美しい森林と川と海に囲まれて人生を楽しみ、愛する家族と共に幸せに暮らすことができるように、今こそ流域に暮らすひとり一人の住民の意識改革から、この豊かな自然環境を持続可能な財産として皆の手で育み、ずっと暮らしていただく魅力的な矢作川流域的生活空間「矢作川ディズ」を創り上げていきましょう。

4 ウッドスタートの明るく楽しい未来への展望

矢作川流域における「木づかいガイドライン」の内容や「矢作川ディズ」の思想は、市民から始める「ウッドスタート」と言っても過言ではありません。国土交通省豊橋河川事務所で取りまとめを行っている「矢作川流域圏懇談会」ですが、市民、行政、業界、研究機関が毎月1回のペースで会合しており、これほど多様な参加者でこれだけ頻繁に会合している事例は珍しいのではないかと思います。ただ、愛知・岐阜・長野の各県の職員と各市町村職員の出席については、会合のタイミングや出席の必要性から必ずしも出席率は高いとは言えませんが、こうした里山の担い手の把握・連携、森づくりや木づかいについて、流域を意識して広い範囲から関係者が集まることは、これから推進していきたい「ウッドスタート」にとっては良いことだと思います。

「ウッドスタート」とは、家庭や職場など身近な生活空間に意識して木のある場面を作り出そうとする木づかい活動で、多くの企業やいくつかの市町村で「ウッドスタート」宣言がなされて、すでに活動が始まっています。「木づかいガイドライン」や「スギダラ矢作川流域支部」では、こうした「ウッドスタート」を推進していくきっかけづくりになれば良いと考えています。

「木づかいガイドライン」検討時にすでに多くの意見が出されていますが、山部会に参加されるような方々の全員が青少年期に自然の中で過ごしたことや、木工作、山登り、自然景観に対する感動等、様々な自然や森林や木に出会った楽しい経験を持っていることがわかりました。こうした経験が青少年時の豊かな感受性によって受け止められて、現在の森林や木に結びつく職業に就いている構図が見られました。このことは、青少年期に自然や森林や木に出会うことの重要性を感じさせます。これらのことから、普段、森林や木に接している山村の「森の民」等が、下流域の青少年に自



然や森林や木に出会う機会を作ったり、森林や木と過ごす時間の豊さを伝えてあげることが重要だと思います。

また、青少年は大人の背中を見て育つものなので、やはり大人が森林や木の世界と仲良しであること、森林や木と共に過ごす時間を楽しんでいるところを見せてあげるべきでしょう。

森林を扱う考え方や技術、木を工作する技能、このようなものはあらゆる機会をとらえて、青少年に伝えたいものです。こうした活動は、世代間の隔たりを超えて可能

ですし、むしろお年寄りや熟練技能者のすごい技を青少年に伝える、というのはとても理想的だと思います。青少年は技能を引き継ぎ、お年寄りや熟練技能者は自分の技を教え伝えていくことで、自己の存在感・経験値の肯定感・生きがいを感じられることでしょう。



こうした、矢作川流域のいたる所で、木を絆とした地域や世代を超えた一体感を感じられること、自然や森林や木やそれらを教えてくれる方々への共感や尊敬、木の感謝祭の開催、自然や森や木のイベントを皆で考えて実施してみること、等が始まると、とても素敵です。こうした、流域内で取り組まれる様々な「木づかい」活動が地域や人の輪をつくることに、直接結びついていくことでしょう。

最後にこうした「木づかいガイドライン」や「スギダラ矢作川流域支部」の発足をきっかけとして、各地で「ウッドスタート」の取り組みを発進させ、世代や行政の垣根を超えた矢作川流域の方々同士の人の輪を育成し、流域の森林資源の活用と森や木とのたくさんの出会いの場をつくることによって、矢作川流域を明るく楽しい未来に導きたいと思えます。最後まで読んでいただき、どうもありがとう！！今後共、よろしくお願いします。





根羽村の木づかい推進担当者紹介
根羽村振興課長 小木曾秀美(右)
根羽村森林組合参事 今村豊(左)

☆☆ **山は素敵だ** ☆☆

連絡先

根羽村役場振興課 0265-49-2111

根羽村森林組合 0265-49-2120

山部会 木づかいガイドライン作成の取組み整理表

区 分	主 体 者	内 容
木づかいガイドライン	市民 行政 業界 研究者	「さあ~しよう」提案
木づかいライブ スギダラキャラバン	根羽村森林組合	別紙 スギダラキャラバンの実施 スギダラ天竜支部との連携 木の魅力と楽しさを「森の民」が伝える 木製品の受注販売 木づかい推進の取組みに対する公的資金による支援(公園等の木づかい推進拠点)
-29- 様々な木のある暮らしのアイテム提案	根羽村森林組合	どこでもシリーズ → 水平展開から垂直展開へ 動く木のおもちゃ → 木の魅力に釘付け・木の魅力への導き 流域ものさし → 全国共通アイテム化・私の流域甲子園 根羽物置 → 手が届く価格・実用的・自由設計・自分で建てられる 安曇野市 中房温泉 貸切風呂「根羽の湯」 → 露天風呂交流・青少年の動機付
矢作川ディズ・木づかい市民活動・ フェアトレード・流域連携	あそべるとよたプロジェクト 流域フェス 豊田市 市民 東幡豆漁業組合と根羽村森林組合 安城市と根羽村森林組合 中房温泉と根羽村森林組合 信州大学等と根羽村・根羽村森林組合 豊田市製材工場と根羽村森林組合 流域内工務店と根羽村森林組合	市民提案・参加型プレイスメイキングによる流域連携の拠点創設 流域連携イベント → 市民活動に向けたキックオフ 川会議による流域連携 私の流域物語・スギダラキャラバンへの参加による木の魅力の気づき 漁礁及び憩いの浜辺プレイスメイキング(場所の力づくり) 木材利用指針・公的資金支援・カーボンオフセットを原資とした木づかい推進活動 愛知県小中学生を対象とした温泉・山岳・森林・木づかいファンづくり 流域資源活用・持続可能な流域づくりのための流域内知の集積ツアー お互いに補完しあう矢作川流域材の生産・流通 木づかい推進活動と連携した「子供の時から始める木の家づくり物語」 テーマ性・デザイン性・遊び心満載の二地域居住者向けコンパクト住宅

28 「木の魅力と楽しさを伝える

木づかいライブ・スギダラキャラバンの実績及び予定」

NO	イベント名	開催日	場所	備考
1	矢作川の源流 森の民と根羽村ツアー	4/15.16	根羽村	見学
2	おこしものをつくろう	4/16	豊田市 エコット	体験
3	野底山森林公園 さくら祭り	4/24	飯田市 野底山森林公園	展示
4	オールアイシン家族祭り	5/29	刈谷市 アイシン高丘工場	体験
5	矢作川流域ものさしをつくろう	6/29	根羽村	体験
6	木のおもちゃで遊ぼう 木育キャラバン	7/2.3	豊田市 エコット	体験
7	奥矢作川森林フェスティバル	7/16	豊田市	展示
8	アイシン夏の陣	7/23	根羽村	体験
9	安城市デンパーク無料開放デー	7/23	安城市 デンパーク	展示
10	わくわくネイチャースクール	7/25.26	根羽村	体験
11	南信州木工作体験	7/27	根羽村	体験
12	エコネット安城 里山体験	8/1	根羽村	体験
13	わくわくネイチャースクール	8/3.4	根羽村	体験
14	矢作川流域ものさしをつくろう	8/6	根羽村	体験 展示
15	輪っばをつくろう 動く木のおもちゃ展	8/11.12	東京都 東急ハンズ新宿店	体験 展示
16	うるぎ星の森音楽祭	9/4	売木村 うるぎ星の森キャンプ場	体験 展示
17	エコネット安城	9/4	根羽村 根羽スギ弁当	食事
18	伊賀良小木工作体験	9/18	飯田市 伊賀良小	体験
19	信州大学農学部祭	9/22	南箕輪村 信州大学農学部	体験 展示
20	明治用水まつり	9/24	安城市	体験・ 展示
21	安城市中部公民館芸能祭り	9/25	安城市 中部公民館	体験 展示
22	東急ハンズ新宿店 20周年記念イベント	10/4	東京都 東急ハンズ新宿店	体験 展示

23	メッセナゴヤ 2016	10/26.27.28.29	名古屋市 メッセナゴヤ	展示
24	安城市グリーンツーリズム	11/2.3	根羽村 グリーンハウス森沢	体験
25	アイシン秋の陣	11/5	根羽村	体験
26	安城市明祥公民館祭り	11/12.13	安城市 明祥公民館	体験 展示
27	飯田合庁木づかい推進フェア	11/14~18	飯田市 飯田合庁	展示
28	田舎とまちの文化祭	11/20	豊田市	体験 展示
29	安城市中央図書館イベント	1/22	安城市 中央図書館	体験 展示
30	南信州間伐材フェア	3/12	飯田市	展示

注) 体験とは木のペンダントづくり、表札づくり、輪っばづくり等である。

展示とはどこでもブランコ、どこでもウッドデッキ、どこでもオセロ、根羽物置、動く木のおもちゃ等である。

ブレインストーミングの結果による木づかい推進の考え方

- ① ブレインストーミングの結果、市民が主役となって生活の中で自然に木づかいを推進してもらうためには、市民のライフステージに合わせた取り組みが必要と考えられる。
- ② 特に、子供の頃の自然との触れ合い等の原体験が、今後の自然観や森や木や水への関心度を高めることに対して、極めて重要であることが共通認識されているので、年少時からの木づかい推進の関わりを重視したい。
- ③ 矢作川流域ならではの森や木と水と共に人生を楽しむライフスタイルをまず、市民生活の中において意識化（矢作川ディズ）させ、産官学の連携によって、中でも森林づくりや木づかい推進を特に意図しながら進めていきたい。
- ④ 市民のライフステージをベースにして多岐に渡る木づかい推進項目を整理し、各項目ごとにフォーマットを決めて検討を進めることで、テーマの絞り込み・集中化・関連する関係者の招集・ワーキング活動がやりやすくなると考えられる。例えば、今回のテーマは、A-ア-①という具合に。山部会での様々な木づかい推進アイデアを各ライフステージに盛り込んで形にしたい。
- ⑤ 推進項目のフォーマットが決定できれば、パターン化による電子媒体化・電子本・共通ホルダー化の作成も検討したい。場合によっては、市民からの情報収集も行いたい。
- ⑥ 市民が実践しているフリーペーパー「耕ライフ」誌のセンス・コンセプトを活かして、多岐に渡るテーマから順番にテーマを決めて、ポイント的に紹介して「矢作川ディズ」の見える化と推進を図りたい。
- ⑦ 推進項目やライフステージの区切りについては現行のイメージ（案）をベースに、ブレインストーミングにより整理したい。
- ⑧ ガイドラインの作成を進めるにあたり、森づくり・木づかいの最前線の方々への参加によるワークショップを実践したい。その方々の現行の取り組みやワークショップの取り組みをライフステージアタック表に整理して組み込むだけでも、矢作川流域オリジナルとなるトータル的な木づかいガイドラインが作成できると考える。
- ⑨ 各県の林業普及指導員が参加してくれることにより、森づくり・木づかい推進の各県の共通項目による情報収集・人の輪づくり・行政提案・活動実践がやりやすくなると考えられる。各県の指導員の密な連絡・連携体制を期待したい。

矢作川ディズ 市民が行動を開始できる木づかいガイドライン ライフステージアタック表
(案)

<p>矢作川ディズなライフスタイルを確立するためのライフステージアタック対象</p>	<p>ライフステージの特徴</p>	<p>市民編A 森や木と水と共に人生を楽しむライフスタイル矢作川ディズへの誘い</p> <p>自発的活動 こんなことを目指してさあ～しよう</p>	<p>行政編B 木づかい推進に向けた社会環境・システムづくりと矢作川ディズへの支援</p> <p>施策への導き このような意図で施策的に取り組んでいるのでさあ～しよう</p>	<p>業界編C 楽しい矢作川ディズの演出や木の製品提供とそのことによる持続可能な地域産業・生業の確立</p> <p>魅力の伝達 こんな魅力ある商品なのでさあ～しよう</p>	<p>研究編D 木のすばらしさを伝えて木づかいを進め、森林や矢作川の持つ役割の大切を普及させる</p> <p>提案型 だからさあ～しよう</p>
<p>ア 赤ちゃん～ 保育園の入園前 対象者数</p>	<p>人生のはじまり 木のぬくもり 三つ子の魂 100 までも</p>	<p>① センス・オブ・ワンドーの大切さを理解しよう ② 木のぬくもりで育児をしよう ③ 家族で自然の息吹を感じよう ④ 安心して野外で遊</p>	<p>① お父さんと母さんと赤ちゃんのための優しい緑の散歩道づくり ② お父さんとお母さんと赤ちゃんのための優しい緑の公園づくり ③ 子供とお父さんお</p>	<p>① 子供の安全な子育てに配慮したベビーベッド ② 安心して使える木の食器 ③ 木のおもちゃの提案 ④ お風呂に浮かべる木の玉プレゼント ⑤ 小さな子</p>	<p>① 幼児期における木との触れ合いがもたらす効果 ② 幼児期における緑の空間がもたらす効果</p>

		ぼう ⑤ 記念植樹をしよう ⑥ お母さんに読んでもらいたい本	かあさんが過ごしたい木と緑に囲まれた憩いの空間づくり	供さんに配慮した緑陰樹を植える	
イ 保育園児 対象者数	人生のはじまり 木のぬくもり 三つ子の魂 100 までも 五感の発達	① 自然を感じてみよう ② 木で遊ぼう ③ 木と森の物語を楽しもう ④ 子供と楽しもう	① 木造保育園の設置 ② 身の回りの木造製品の施設設置 ③ 窓辺を覆う緑のカーテンづくり	① 木造保育園モザイク床パネル ② 保育園児のための積み木のプレゼント(針・広の樹種)	① 木造校舎が児童に果たす様々な効果 ② 保育園児の好きな形・玩具の研究
ウ 小学校 対象者数	感受性の高まり 自我の芽生え センス・オブ・ワンダー 人間関係の構築 (仲間に対する信頼・友情等) 自分の力の認知	① 自然を五感で感じてみよう ② 自然観察をしてみよう ③ 君に教えるふるさとの木の四季の姿(マイツリーを見つけよう・植えよう) ④ 木の工作をしてみよう	① 子供たちが入っても安全な学有林の設置 ② 先生のための木育指導ガイドブック(流域編) ③ 先生のための木育指導研修 ④ 先生のためのブックレビュー	① 児童と先生のための山仕度セット(地下足袋・鉋・鋸セット) ② 地元の木を使用した魅力的な校舎の建築 ③ 木のキットハウスの提案(木の工作室)	① 自然との出会いがもたらす創造力・観察力・協調性の効果 ② 木造校舎が児童にもたらす情操効果 ③ 子供のための木の科学実験ガイドブック ④ 森の働きについての理解を高める教材づくり

		<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 木の面白科学実験で木を好きになろう ⑥ ネイチャーゲームで楽しもう ⑦ 森の中で秘密基地を作ろう ⑧ ボルダリングで岩を楽しもう ⑨ ツリークライミングで木を楽しもう ⑩ ツリーハウスを作ってみよう ⑪ こんな本を読んでもみよう ⑫ 木と森の物語を楽しもう ⑬ 川に行ってプラナリアを見つけよう 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 地元の木を使用した魅力的な校舎の建築 ⑥ 入学祝い・卒業記念になる机・椅子セットのプレゼント ⑦ 少年たちに向けた地域と結びついた水と木と森の物語の創作 ⑧ 小学校の授業に山の授業を導入 ⑨ 地下足袋を揃える 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 木と木を結ぶスカイウォーカー・ワイヤー滑り・ツリーハウス ⑤ 児童のための丸太・木材プレゼント ⑥ 端材を活用した教材キットの開発 	
工 中学校 対象者数	思春期	① 木の名前と特徴を知ろう	① 森と木に親しむ中学生のため	① 児童と先生のための山仕度	

		<ul style="list-style-type: none"> ② 仲間と海から水源（逆も可）を目指す流域の旅に出かけよう ③ 流域の面白い場所を見つけよう ④ 自然の中でチャレンジしてみよう ⑤ こんな本を読んでみよう ⑥ 山づくりのプロの技を見よう 	<p>めのチャレンジ読本の創刊</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 森と木に親しむ技能ブックの紹介 ③ 大工と建てる木の家と内装 ④ 森と川と共に生きた人々を学ぶ 	<p>セット（地下足袋・鉋・鋸セット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 地元の木を使用した魅力的な木造小学校の建築 ③ 木のキットハウスの提案（木の工作室） ④ 木と木を結ぶスカイウォーカー・ワイヤー滑り ⑤ 児童のための丸太・木材プレゼント 	
オ 高等学校 対象者数	人生の選択	<ul style="list-style-type: none"> ① 矢作川流域圏懇談会の調査に参加してみよう ② 身近な里山を活用するプランづくりをしてみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ① 緑と川と共に生きていくライフスタイルの提案 ② 木と緑と川の最前線で働く卒業生に 	<ul style="list-style-type: none"> ① 私達の木と緑の職業案内 ② 地域を活かした地域産業ガイドダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ① 木と緑と川のための新たな研究者を求めようガイドダンス

		よう	今の職業を聴く ③ 地域づくりを目指す若者のためのふるさとの自然を教える行政主導のガイダンス		
カ 大学 専門学校 対象者数	自我の確立	① 森や木や流域に対するテーマを見つけてみよう ② 地域社会の改革にチャレンジしてみよう ③ 遊休農地・里山活用にチャレンジしてみよう ④ 地域で活躍している人たちに会いにいこう ⑤ マイチェンソーを持ちましょう	① 学生の研究や起業チャレンジのためのフィールド提供	① 各県の林業研究機関と連携した木質化推進テーマ研究	② キャンパス内の木質化・都市部等の木質化に関する研究 ③ 水源地域での大学演習林設置による市民に向けた森林学習

<p>キ 就職 対象者数</p>	<p>社会人</p>	<p>① 自分の職場環境で木づかいを進めてみよう ②</p>	<p>① 就職記念の木のフィールド提供 ② 企業による毎年恒例記念植樹・緑の回廊づくりの場の提供</p>	<p>① 木と共に暮らす様々なアイテム</p>	
<p>ク 市民・社会人 対象者数</p>	<p>ライフスタイルの確立</p>	<p>① 地元の木で家を建てよう ② 木のお店へ出かけてみよう ③ 木の木陰を見つけて散歩やサイクリングをしよう ④ 森や源流を訪ねて四季を楽しもう ⑤ 暮らしやすく魅力的な自然環境をつくろう ⑥ 身近な里山で母樹を見つけよう ⑦ 地域材住</p>	<p>① 市民や公共施設の木づかいを推進する様々な制度と支援策 ② 木づかいを推進するための業界と研究機関との連携やシステムづくり ③ 木づかいによる公共空間づくり市民活動スギダラ ヒノダラ 広ダラ 矢作川の実践 ④ 木と森と</p>	<p>① 地元の建築士・工務店による様々な木の住まい提案 ② 様々な木の製品を扱うお店からの住まい提案 ③ 各社の快適住まい最新提案 ・ 断熱 ・ 結露 ・ 防水 ・ 温度・湿度調整 ・ 防音 ④ 広葉樹の利用編 ⑤ 径級別建築部材確保による建築部材</p>	<p>① 木の住まいの魅力を伝える様々な科学的データ ② ウッドマイレージの考え方による国産材の普及 ③ 木造公共施設の低コスト建築方法</p>

		<p>宅の見学会に出かけよう</p> <p>⑧ 木の住まいを考えるにはこんな本を読んでもみよう</p> <p>⑨ 里山の哲学と知的財産に会いに行こう</p>	<p>田舎との出会いバスツアー交通費支援</p> <p>⑤ 田舎の親戚制度で田舎を持つ</p> <p>⑥ 木材のパイロット価格制度導入による木材の安定供給</p>	<p>の共通化</p> <p>⑥ 木材利用ポイント制度の普及</p>	
結婚 対象者数	旅たち	<p>① 記念樹を植えて木と共に生きよう</p> <p>② 木の住まいを検討してみよう</p> <p>③ ライフプランを考えよう</p> <p>④ 素敵な木の教会での挙式</p> <p>⑤ 森に祝福される日</p>	<p>① 木づかいによる結婚式の素敵な演出・支援措置</p> <p>② 結婚記念林の設定</p>	<p>① 木の結婚記念品の開発</p>	
出産 対象者数	家族			<p>① 木の出産記念品の開発</p>	
マイホーム 対象者数	家族の和 生活拠点				
増改築	住まいの補修	① 現在の住	① 木づかい		

対象者数		まいを木造にしてみよう ② 室内の内装に木を使ってみよう	推進のための増改築支援		
セカンドハウス対象者数		① 仲間と集まる家を建てよう ② 里山サロンを作ってみよう ③ 遊休農地でクリエイティブな農業にチャレンジ	① 市民による木づかい推進・地域づくりのための活動拠点施設支援 ② 遊休農地活用と結び付けた里山活動拠点施設 ③ 田舎の親戚制度の創設	① 小さく住まう住宅提案	
市民・社会活動対象者数	森づくり・木づかいを通しての人生の楽しみ	① 皆が集まる公共空間を木と緑の憩いの空間に変える ② 木づかいや流域を愛する気持ちをつなげ絆を高める矢作川ディ			① 森の健康診断の結果報告 ② 木づかい推進による持続可能な地域づくりは可能なのか

		ズ 駅 伝 (海から 水源 (1 日目、水 源から海 2 日目水 源 から 海) をや ってみよ う ③ ス ギ ダ ラ・ヒノ ダラ・広 ダラ矢作 川運動の 推進			
人生の達人 対象者数	後世にスピリッ トを伝える 後世に技術・技 能を伝える	① 森づくり やその歴 史を語ろ う ② 自慢の我 が家を紹 介しよう ③ 森や木や 矢作川の 流れと共 に暮らし た 良 き 日々を語 ろう ④ 人生の達 人者のお 話を傾聴 しよう	① 地域文化 の発信施 設	② 技能・文 化の継承 ③ 達人が伝 えたい 森・木づ かいの場	① 偉人達の足 跡を後世に わかりやす く伝える